神に祈り、日本を救い、日本を変える

TPC
365日祈り会
365日礼拝

東京プレヤーセンター　Tokyo Prayer Center

News Letter（ニューズレター）

新年号

2017年1月
JANUARY

Vol. 61

すべての人を歓迎します！

発行責任者：代表／チャプレン 和氣敏治（工学博士）
特別相談役　中野雄一郎（MOM代表）

「神を愛するとは、神の命令を守ることです。」

ヨハネの手紙 第一　5章3節

シオン・キリスト教団
蒲田教会牧師
石田 敏則

信仰生活の秘訣は神を愛することであると教えられています。主は「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」と語られました。

では、主の戒めとは何でしょう。マタイの福音書22章で、律法の専門家から「律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」と尋ねられたときイエスは「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」と語られています。イエスは、神の愛で神と人を愛するようにと命じられているのです。（1ヨハネ4:21）

神の愛を知らない人々でも、愛する人から頼まれればどんなことでも喜んで精一杯応えようとします。しかし、人の愛には限界がありますし状況や心情によって冷えたり変質することもあるのです。

私たちが救いを受けたのは行ないによるのではありません。一方的な神の愛と憐れみによるものです。しかもキリスト・イエスにある神の愛は永遠のものであり、私たちの行ないによって左右されるようなものではありません。人は神がいのちをささげなければならないほど罪深い存在なのです。

だれも犯罪者の身代わりにはなりたくないでしょう。しかし、全く罪のないイエス・キリストは私たち一人ひとりの全生涯の罪と罪からの刑罰を十字架で受けてくださいました。

日本人はお世話になっていることに対してお返しをすることが習慣となっています。しかし、主の十字架に対して、私たちに恩返しできるのは何もありません。ただ主の命令（みことば）を守り、神を愛し、隣人を愛して生きることしかないのです。主が愛されたように隣人を愛する1年であるよう祈ってやみません。

新聖歌 445の歌詞に「感謝抱きて　十字架を担え」とありますが、神の犠牲と愛の象徴である十字架を見上げて主の証人として生きようではありませんか。その命令は重荷とはなりません。

TPCは「日本と世界のリバイバル」を目指します

（1）閉塞感のある日本のキリスト教界に元気を与える
（2）毎日、礼拝を捧げ、祈り会をおこなう
（3）超教派として活動する
（4）伝道、学びなどのために貸室を提供する